

2022年・新型コロナ 重症化しにくいオミクロン株 神奈川県医療危機対策統括官・阿南英明氏

2022/5/11 毎日新聞

過剰な対応見直すべきだ



新型コロナウイルス感染症は、従来の株より感染拡大が速いものの重症化しにくい「オミクロン株」が登場し、流行の局面が変わった。「過剰な対応を見直すべきだ」。神奈川県の新型コロナ対策を指揮する阿南英明・県医療危機対策統括官（56）はウイルスの特性に合わせた医療や保健所の在り方を国に提案している。

——オミクロン株の性質をどう評価しますか？

◆昨年夏に流行したデルタ株は肺炎を起こしやすく、高齢者以外も重症化して亡くなることがありました。オミクロン株は肺炎の発症が少なく、国民の8割がワクチンを接種したことも重なり、重症化する割合は下がりました。若い人の大半は症状が出てもせきや喉の痛み程度。この2年間で新型コロナに感染すると人がばたばたと亡くなるイメージが浸透しましたが、状況は大きく変わりました。

●保健所の注力先絞る

——厚生労働省の助言組織「新型コロナ対策アドバイザリーボード（AB）」のメンバーとして、国に対策変更を訴えてきました。

◆特にこだわったのは濃厚接触者です。国の方針で、感染封じ込めのために感染者と濃厚接触した人を特定し、外出自粛を要請してきました。しかし、感染者数が多い状況では効果が高くない上に、オミクロン株は感染拡大が速いため追いきれません。ABの有志は、そこに保健所が労力を割くのはやめるべきだと提言し、国も3月に調査を高齢者施設などに重点化する方針を通知しました。

——今年1月には神奈川県独自で「自主療養制度」（自己検査で陽性となった人が医療機関を受診せずに自宅療養する制度。感染症法上の感染者として扱わないものの、なるべく外出を控えるよう求める）を始めました。

◆これまでは感染の可能性があれば医療機関への受診を促し、感染者は行政が管理してきました。重症化リスクの低い感染者は、仕事や学校に行かずに休んでいれば2～3日で回復するので、行政がそこまで管理する必要はありません。自分の健康は自分で管理する「セルフチェック」を活用することで、医療や救急などの行政サービスをもっと有効利用できると思います。

一方、重症化リスクの高い高齢者に対する体制整備は重要です。神奈川県では、高齢者施設などで感染者が出たらすぐに治療薬を投与しつつ、他の利用者や職員に一斉検査するようにしました。

●最低限の外出認める

——新型コロナの感染症法上の扱いを季節性インフルエンザと同じ「5類感染症」にすべきだとの意見もあります。

◆オミクロン株が登場してから、国は少しずつ5類に近い対策に変えてきました。ウイ

ルスの変化に合わせて、過不足ない対応にすべきです。

例えば、行政がすべての感染者を管理する必要はないので、医療機関が全陽性者の詳細な情報を保健所に届ける「全数報告」を改め、患者数は検査実施状況から把握すればいいでしょう。軽症者は、厳密な感染防止対策を施した医療機関だけでなく可能な限り一般の医療機関での診療へ拡大する。全額無料の公費負担から、医療費の高い入院や治療薬を除いて通常の保険診療に移す。また、感染者がマスクをして短時間で買い物をして人もうつすリスクは低いので、生活のための最低限の外出を認めるよう行動制限の見直しを検討する時期に来ています。

——これまで緊急事態宣言などで感染者数を抑え込んできましたが、専門家内で賛否が分かれています。

◆感染者が増えて医療が大変になると国民の行動は慎重になるので、極力、法的な行動制限を回避する道はあると思います。オミクロン株を前提として、今までとは異なる社会経済活動と医療の在り方を模索すべきです。これは医療や経済の専門家ではなく、国民の意見を反映させた政治による判断が求められます。【聞き手・原田啓之】

阿南英明（あなん・ひであき）氏

神奈川県・藤沢市民病院副院長。専門は災害医学、救急医学。新型コロナでは2020年2月に横浜港へ寄港したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」で感染者の搬送調整を担当した。